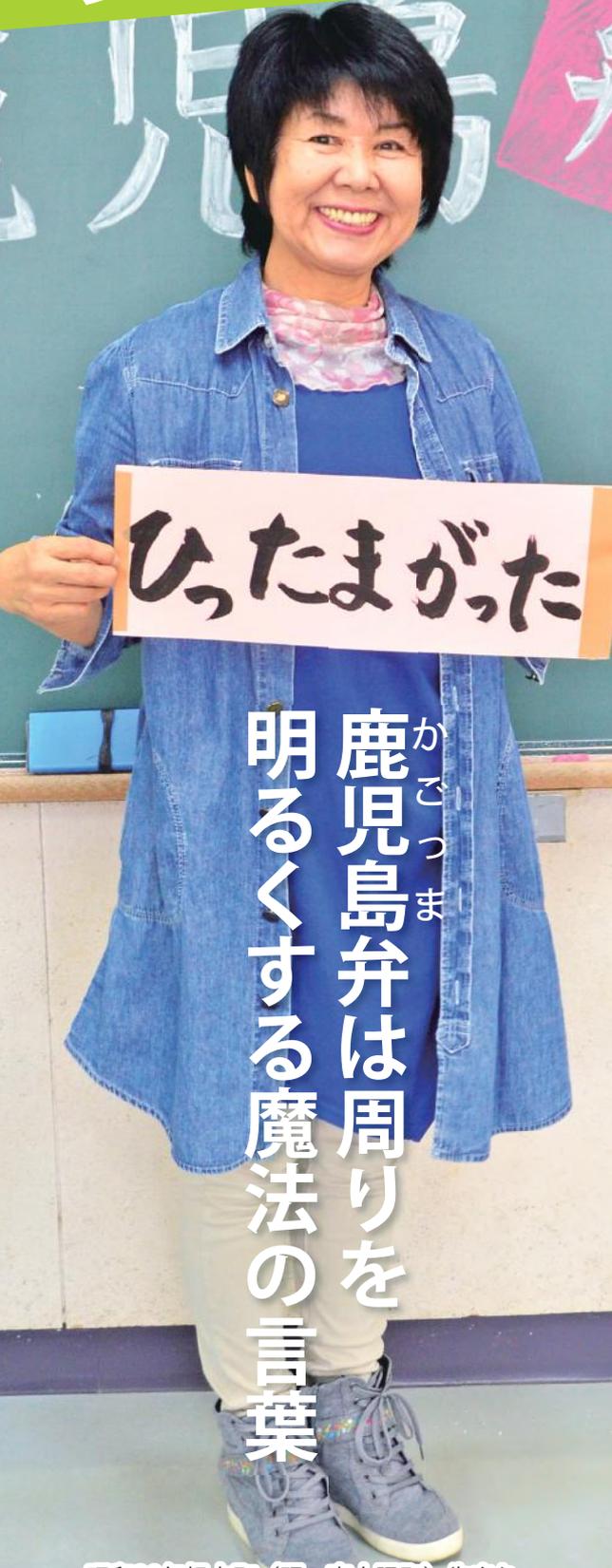


# 夢のかけはし



かごつま  
鹿兒島弁は周りを  
明るくする魔法の言葉

昭和28年根占町（現・南大隅町）生まれ。平成元年から夫の転勤とともに市内に転居。平成22年、鹿兒島弁検定実行委員会（現・鹿兒島弁検定協会）に入会し、平成24年から同協会大隅支部支部長。（65歳）

長期入院していた母を見舞ったある日のこと。「本当に今日も来てくれたとか。面倒をかけるねえ」との母の言葉に、私は「何を言うとな。娘やがな」と応えました。すると、近くにいた年配の方が「あなたたちの話を聞いていければ、なんか昔ん戻ったようだ」とおっしゃったのです。恥ずかしくなって、とっさに「すみません」と謝ると、「じやいもん。お母さんが鹿兒島弁を使ってたつて、使てやらんないかんどちゆうことよ。あんたが病院に來やれば楽しか」とおっしゃいました。そんなに言われて怒るはずがありません。「そんなことなら、いつでもしやべりに來つて」。以

来、「今日の塩梅はいかがですか」から始まって、もう鹿兒島弁の炸裂です。周囲にしわを寄せて、身内の介護・家事と慌しくしていた日々から明るい笑顔を取り戻すきっかけになりました。平成22年、「鹿兒島弁検定受講者募集」の新聞記事を見て「これだ！」と直感し、鹿兒島市内で鹿兒島弁講座を受講。年ごとに初級・中級・上級の検定試験に挑戦したところ、難なく合格し、師範まで修了しました。そして「鹿兒島弁を語り継ぐ会」・「方言研究会」に入会し、孫をも巻き込んだでの活動を開始することになりました。平成24年には仲間と鹿兒島弁検定実行委員会大隅支部を立ち上

## 鹿兒島弁を語り継ぐ

# いまかけふよこ 今掛 富代子 さん

げ、さらに「私たちは鹿兒島弁が好つじやつと」を合言葉に、支部の劇団「だつきしよ」を旗揚げしました。そして本部と連携を深めながら、同年から、大隅支部にも年1回の検定試験会場を設置することができました。これまで、約300人ほどがそれぞれ合格証を取得していらつしやいます。検定の目的は鹿兒島弁を次世代に語り継ぐこと。語源や由来など、学識的なことは置いて、まずは一つでも多くの鹿兒島弁を楽しんでいければいいと思います。鹿兒島弁は多くの人を笑顔にし、雰囲気をも明るくしてくれる魔法の言葉。まだまだ多くの人に鹿兒島弁の魅力を伝えていきたいですね。



【右】検定前の事前講座では、受験者に試験のポイントを説明。



【左】串良小学校で昨年開催された鹿兒島弁検定協会の劇団「げたんは」による出前授業。主役を務めるのは今掛さん（右端）

10月16日（火）9時5分からFMかのやに今掛 富代子 さんが出演